

[13\_2] 図書館情報 : 九州大学附属図書館報 :  
13(2)

<https://doi.org/10.15017/18303>

---

出版情報 : 図書館情報. 13 (2), pp.9-16, 1977-06-30. 九州大学附属図書館  
バージョン :  
権利関係 :



# 図書館情報

1977. 4~6

The Kyushu University Library Bulletin

Vol. 13, No. 2

## 事務部長に就任して

岡田 六郎

4月1日付で図書館の事務部長を命ぜられ赴任して2月余りになります。大学に職を奉じて20数年、その大部分の期間を学生部関係の仕事をして参りました、従って図書館については全くの門外漢、不安と危惧の2月程度では、書くべきものは何も持っていません。ただ蘭入者の眼から「岡目八目」の弁を述べさせて戴くのみです。もっとも「傍目八目」の正しい意味は、局外から見ていると対局者より勝負に冷静になれるので、八手も先が見える、即ち物事の是非、利・不利が明らかに判るということですが、決して私が八手先が見えるということではなく、外野席から眺め勝手に喋べるに過ぎません。

兎角勉強することのみ多く、まず何から手をつけたらよいのか考えましたが、今からでは所詮専門家になることは無理ですから一つ一つ自分の眼で確かめ学びとることが先決ではないかと考えております。

図書館とは何かも判らない私ですから、判らない事ばかりですが、私の判らない点勉強すべき点がりともなおさず、問題点でもあり今後解決すべき課題ではなかろうかと考え、そうした意味で思いつく二、三をあげてみますと、組織上のことでは(1)中央図書館と分館との関係(2)理・農図書館の今後の問題(3)全学図書館行政のあり方、各部局図書館と中央図書館との結びつき、特に文科系図書館との関係などです。機能的な面に関するものでは(1)閲覧をはじめ参考、情報などサービ業務に関すること(2)機械化など、情報化時代への対応(機械化は現在全国的な趨勢である)(3)外国雑誌についての諸問題(外国雑誌の一括契約、支払については、本年度より共同作業に踏み切ったが共同作業には問題点もあり、この改善策については現在検討に入るところである。)(4)相互協力の問題。

前記の組織の問題については、何処に問題があるのかその所在の正確な把握が必要であり、分館、各図書館との接触が大切と考え、月2回程度は顔を出して、人々の意見を聞き、勉強することから始めています。特に分館との関係は密接でなくてはならないので、分館掛長との会議を月一回は持つことにしています。また図書館の業務は他の部局の業務と比較してかなり異っているのではないかと考えますので、この点従来の観点とは違った新しい視野から、全く別の角度から見なおして必要があると思っています。全国協議会などに出席し、図書館そのものが変貌の時期を迎えているのをひしひしと感じます。図書館の持つ目的・機能が大きく変わりつつあるのではなかろうか、従来のままの業務を追うのみではこの変貌の時代に対処し得ないのではないかという、大袈裟に言えば一種の危機感すら抱きます。将来への展望を持ち長期の計画を樹立し、政策を策定しこれにそって日常の業務を推進することが一層必要ではないかと思ひます。現在この点について各掛に長期計画の立案を検討してもらっています。たとえ夢の計画でもよいその提案されたもののなかから、実行しなければならないもの、実行可能な課題について検討し考究して、これを具体化し業務の柱・目標としたいと考えています。また図書館の理解の不足を痛感いたします、これは同時に図書館のPRの不足もあると思ひますので、PRについては今後積極的に取り組みたいと計画しています。

述べたいことは数多くありますが、紙数の都合もあって幾分端折りしましたので、やや舌足らずの処もありますが、以上「岡目八目」の弁を述べてご挨拶いたします。図書館をよりよくするために、ご意見や忌憚のないご忠言などお聞かせ願えればまことに幸甚に存じます。最後に今後とも図書館へのご協力を心よりお願いいたします。

(おかだ・ろくろう：事務部長)



## 〈特集〉

## 大学図書館の改善の方向(要旨)

沙 藤 隆 茂

大学図書館の改善に関しては、これまで様々の議論が行われてきましたが、本日は、私が文部省学術国際局情報図書館課に勤務したこの数年間に、若干携わりました二つの会議での議論を御紹介したいと思います。これらの一は学術審議会におけるそれであり、二は大学図書館改善協議会のそれであります。

1. 学術審議会答申「学術振興に関する当面の基本的な施策について」(昭48.10.30)並びに同審議会学術情報分科会「学術情報の流通体制の改善について(報告)」

これらは「学術月報」(26巻増刊号, 1974)に全文が掲載されておりますので、お読みになった方も多いと思いますが、ここでのお話に直接関係するのは、「答申」では「学術情報の流通体制の改善」という章であります。

申すまでもなく、この「答申」は、我が国の学術振興に関し「基本的な考え方」を示すとともに採られるべき「基本的施策」を提案しているものでありますが、「学術情報の流通体制の改善」が学術研究の発展に不可欠であるとして、そのために独立の1章が当てられていることは、学術情報の問題に対する認識の高まりを示すものであると申せましょう。

この学術審議会の「答申」の考え方を、その基になっている同審議会学術情報分科会の「報告」を念頭に置きつつ、ごくかいつまんで御紹介しますと、先ず、情報の「流通体制」という語の概念であります。これは、研究成果としての学術情報の公表(出版)から収集・蓄積・利用にわたる全過程を包含するものとして用いられています。すなわち、学術情報の「流通」ということは、学術研究成果のより広範な、また、より円滑な伝達を目的とするものであるにしても、そのためには、学術情報の公けのものになる媒体としての出版活動の在り方にまで遡って改善が考えられるべきで、「答申」ではそれを一次情報の精選の問題、二次情報(一次情報に接近するための手段となる情報)の整備の問題、また、科学数量データの評価、集成、確立活動の問題として述べております。ついで、このような生産された情報が流通するための狭義の、と申しますか、字義通りの、と申しますか、「流通システム」として、「答申」は、「第1図書館システム」と「第2図書館システム」を挙げて説いております。「第1図書館システム」という名前は、伝統的あるいは在来の図書館を指すものとして用いられ、「第2図書館システム」とは、従来の図書館活動をもっては応じ得ない、新しい情報流通機能を指す語として使われております。すなわち、大型コンピュータや通信回線の利用を中心とする新しいタイプの情報処理・伝達の活動が考えられているわけです。したがって、おわかりのように、情報流通システムとして挙げられたこれら2種のシステムは、もっぱら、2種の機能と解して差支えないものであります。そしてこの2種の機能を兼ね備えた営造物(機関)として、学術研究資料館(仮称)の設置を、この「答申」は提案しています。それは、いわば、図書館のための図書館であり、あるいは、図書館ネットワークの中核的役割を果たすものであります。上の2種のシステムに即して申せば、在来の図書館サービス(第1図書館システム)から新しい情報サービス(第2図書館システム)への転換の接点をなすものとも考えられましょう。このような研究資料館(仮称)を学問の大らかな専門分野ごとに設けることが提案されているのです。それに加えて、情報処理専門家の養成の必要性を挙げている。以上が「答申」の大ざっぱな紹介であります。

ここで我々が考えなければならないことは、今日の学術情報量の増加と極めて多様な研究活動か

ら生じる情報需要とを効率的に仲介し、学術研究のための学術情報流通体制を支える機能としては、今日までの大学図書館の機能ではダメである、という認識がこの「答申」にはっきり出されているということでもあります。それは、概念的に在来の手法を中心とする大学図書館サービスでは達し得ない、高度の情報サービスを必要とする時代に入っているのだ、という認識が示されていると申すべきでありましょう。しかし、それ以上に、私は、我が国の大学図書館が学術情報の流通体制において担い得る役割というものに対して、多分に懐疑的な評価がこの「答申」に読みとれると思います。これは私の印象にすぎないのですけれども、在来の図書館活動を「第1図書館システム」とし、そこに求め得ぬ機能を「第2図書館システム」として、その振興を期待するという発想には、やはり、現実の大学図書館に対するネガティブな認識が潜在しているように思われるのです。これは、我々大学図書館に居る者の十分考えるべきことでありましょう。

## 2. 大学図書館改善協議会

この協議会は、48年度から発足し、「相互協力」と「機械化」に関して「報告」が出されております(「大学図書館研究」6号, 1975)が、ここでは、50年度に再開された同協議会の議論についてお話ししたいと思います。メンバーは、学長、館長、図書館学者、図書館現職管理者というような、文部省によって依頼された人たちへですが、その目的とするところは、大学図書館の機能、運営等に関するスタンダードを作成することです。網羅的な「大学図書館基準」というものは、今日諸外国においてもまだ作られておりません。それは、「基準」に必要な、数量的な要素が大変むづかしいからだと言うことができます。一口に大学図書館といっても、大学の規模、性格、歴史、立地条件等々によってそれぞれ異なった図書館の顔を持っています。それに対して、蔵書数であるとか、職員数であるとかの数量的な基準を設定しようとするのは、いうまでもなく極めて困難な課題なのです。しかし一方、今日の大学図書館の置かれている環境は、過去のそれとは格段に異なり、大学図書館の脱皮、機能の改善が必要とされています。それは、先に紹介した学術審議会答申では、第1図書館システムとして、資料の収集、蓄積、利用の面を担う機能として位置づけられています。果してその機能がよく果されているかと言えば、全くそうではありません。そこで、大学図書館改善のために、上にいう数量的基準をも含め、管理・運営の指針となるもの、関係者の共通理解の下に大学図書館の改善が図られるためのガイドラインとなるものを作りたい、というのが文部省の意図であります。これを「大学図書館改善要項」と呼んでおりますが、すでに「国立大学図書館改善要項」は昭和27年に作られ、その後公、私立大学図書館のそれも、それぞれ作られて今日に至っております。しかし、今日の眼でそれを見直す必要がある。また、学術情報流通体制という全国的な観点に立つとき、国、公、私立というような区別を大学図書館活動に設けるべきではあるまい、というような考え方から、広く大学図書館一般に通ずる基本的基準ないし指針としての「要項」作成が進められているわけでありまして。したがって、この協議会の作業は、先の学術審議会答申にいわれた学術情報流通システムの一翼としての「第1図書館システムの改善」に照応するものであり、それのより詳細、具体的な検討という意味を有するものと申せましょう。この協議会の議論においては、第1図書館システムとか第2図書館システムとかいう言い方はされておませんが、そこでの基本的な考え方として、大学図書館群をもって一つの大きな学術情報流通システムとして捉える、また、それが真にシステムと言い得るように、相互に有機的に連結され、互いに機能を補完し合うものでなければならぬ、という観点がはっきり出されています。それは、同協議会が「50年度審議のまとめ」として出した報告(「大学図書館研究」9号, 1976)の前文にも窺われるのであります。まさに、今後の大学図書館の進むべき方向、したがって、その改善の方向は、いかにして全国的な大学図書館システムを形成してゆくか、ということであろうと思われまゝ。また、各大学における図書館の管理運営をいかに機能的なシステムとしてまとめるか、ということであろうと思われまゝ。大学図書館改善協議会の議論は、そのような考え方を基調としつつ51年度においても進められたわけではありますが、なお、「改善要項」の成案には至っておりません。

大学図書館の管理運営に関して、この協議会で行われた、あるいは行われつつある議論のうち、主要な事項について御紹介したいのですが、本日は時間がないのでその中で特に多くの議論が費やされた問題の一つとして、大学における収書と蔵書管理の在り方について申し上げたいと思います。

今日、大学図書館がその大学の収書にどのような役割を果たしているかと言えば、もっぱら教員の選んだものをその指示に従って発注しているだけ、というのが通例であります。すなわち、大学における極めて重要な蔵書形成の最初の段階で、すでに図書館は実質的な関与をしていないのです。しからば、収書後の蔵書管理はどうであるかと言えば、購入された資料は、部局図書室、学科図書室、研究室等々実に各種の細分単位に流れ込む。大学に流入する資料に関して、図書館は単にその事務手続をするためのトンネルにすぎない、という状況に至るところで見られます。したがって、大学図書館とは称しても、研究用の資料に関しては、その収書においても所蔵においても、甚だ乏しい力しか持っていない。これでは、現在のままの大学図書館をいかに東にしてみても、学術情報流通の基盤となるような、いわゆる「第1図書館システム」の機能は期待し得ないでしょう。問題は、大学図書館が真に大学図書館という名にふさわしい責任と役割を果たし得るように改めることから始めなければならないということにあります。もちろん上に申すようなことには例外の図書館もあるのですが、一般的には、大学における資料分散の状況はおそろべきものであります。例えば私は、学術雑誌総合目録自然科学欧文編の刊行事業に従いましたが、各館から登録される雑誌所蔵のデータを見て、1大学内でいかに夥しい分散所蔵が行われているかを知り、寒気を催しました。これでは、かねて図書館が努力してきた、また、これからも益々その重要性が増してくる図書館相互協力が発展し得るか、更に図書館ネットワークが形成され得るか、甚だ疑問に思われます。

大学における蔵書管理の在り方は「大学図書館組織の在り方と表裏一体をなす問題であります。これまで、大学における資料分散つまり図書館組織の分散は、単なる分散でなく「連絡調整された分散方式」という言い方で肯定され、あるいは、主張されてきました。「連絡調整された分散方式 (Coordinated Decentralization)」とは、かつて東大図書館長岸本先生が、東大図書館の改善に当たってアドバイスを受けられたハーヴァード大学図書館長ブライアント氏により、ハーヴァードにおける方式として紹介されたものであります。しかし、蔵書数700万冊、部局90というような、この古い大学で止むなく採られた方式を直ちに我が国の大学に持ち込むことはいかなるものでしょうか。先の「総合目録」の例では、1学部内での雑誌の分散が数十箇所及ぶケースが沢山見られるのです。少なくとも、蔵書の所蔵単位すなわち大学図書館の構成単位は学部レベル以上とすべきではないでしょうか。改善協議会の議論においても何が何でも「集中」ということではありませんが、大学図書館組織の細分は極力これを避けることが言われております。いわば、自然発生的に、あるいは慣習として存在してきた大学図書館組織を学内における学術情報流通システムという観点から見直し、より効率的なものとして再編成することが全国的な大学図書館システム化のために必要であり、それなくしては、大学図書館の前途は暗いと私は思います。

米国における Center for Research Libraries, Ohio College Library Center あるいは英国における British Library 等、その創設と活動はすべて学術情報のより効率的な収集、蓄積、提供のためのシステム化への大きな成果であります。(藤原他「海外の図書館事情」学術月報28巻7号、1975参照) そのような、大学図書館ネットワークの中核的機関の設置、あるいは先の学術審議会の答申にいう「第2図書館システム」の実現が待望されるわけですが、我々大学図書館としては、先ず現実の再点検、改善から出発して、「第1図書館システム」としての機能をフルに発揮することを追求すべきでありましょう。御静聴ありがとうございます。

(さとう・たかしげ：鹿児島大学附属図書館事務部長)

この〈特集〉は、5月10日、九州地区大学図書館協議会総会において講演されたものの記録要旨を、沙藤部長の諒解を得て掲載いたしました。紙上をもって沙藤部長にお礼を申し上げます。

(編集委員会)

### 国立大学図書館協議会（第24回）

〈とき：昭和52年6月2～3日　ところ：一橋大学講堂、如水会館〉

東京地区協議会の当番の下に80大学から200余名が参加し、文部省から今村学術国際局長，勝谷情報図書館課長，外，関係係官を迎えて開催された。

第1日目は，一般経過報告，各調査研究班報告，各地区協議会報告，岸本奨励賞表彰式，研究集会として「大学図書館基本問題特別委員会報告」に加えて，今村局長の学術情報流通センターとしての大学図書館の役割の重要性，図書館間相互協力，国際的相互協力の必要性和大学図書館の改善について講演があり，続いて勝谷課長から大学図書館行政に関する経過報告があった。

第2日目は，3分科会，すなわち，一般事項及び運営に関する問題，予算・人事・サービス及び技術問題についての協議事項の協議を行い，これらの事項は，午後の全体会議でとりまとめを行ったあと，必要なものについて，文部省その他関係省庁に要望書を提出することになった。

なお，この総会に九州地区から，外国学術雑誌地区センターの設置の検討について，相互協力担当要員の確保についての2議題が提出され協議された。

本学から田中館長，岡田事務部長，岩井閲覧課長が出席した。

### 九州地区国立大学図書館協議会（第7回）

〈とき：昭和52年5月9日　ところ：福岡市　はかた会館〉

第7回協議会は，九州地区の国立12大学から30名が参加，文部省から情報図書館課前田課長補佐，雨森大学図書館係長が列席して開催され，次の協議題について討議された。

1. 外国学術雑誌地区センターの設置と経費の補助について
2. 九州地区国立大学継続受入外国雑誌目録作成について
3. 相互協力担当要員の確保について
4. 全国総会に提出する九州地区からの協議題の取扱いについて

その結果，「外国学術雑誌地区センターの設置の検討について」及び「相互協力担当要員の確保について」の両事項が，第24回国立大学図書館協議会に九州地区からの協議題として提出されることになった。

なお，次期役員館として，地区連絡館に九州大学，理事館に九州大学，熊本大学，当番館に大分大学が決定した。

### 九州地区大学図書館協議会総会（第28回）

〈とき：昭和52年5月10日　ところ：福岡市　はかた会館〉

この総会は，加盟館36館中34館（ほかにオブザーバーとして2館）から72名の参加をえて開かれ，九州大学田中館長を議長に選んで議事が進められた。まず，永年勤続者の表彰を行った後，新規加入館として福岡県社会保育短期大学及び鹿児島短期大学の加入が承認された。続いて，51年度決算及び52年度の予算が承認され，次の協議題の審議及び報告が行われた。

- 協議題
1. 寄贈礼状受領書の送付廃止について
  2. 相互協力体制の強化について

報 告 九州地区における大学図書館業務の機械化の現状報告

報告館 九州芸術工科大学，長崎大学，鹿児島大学，西南学院大学

そのあと，鹿児島大学沙藤事務部長の「大学図書館の改善の方向」についての講演が行われ，今後の大学図書館の改善について多くの示唆を得た。

次期役員館として，幹事館に九州大学，監査館に福岡大学，当番館に大分大学が決定した。

なお，永年勤続者として本学からは西村健次氏（前医学分館受入掛長）が表彰された。

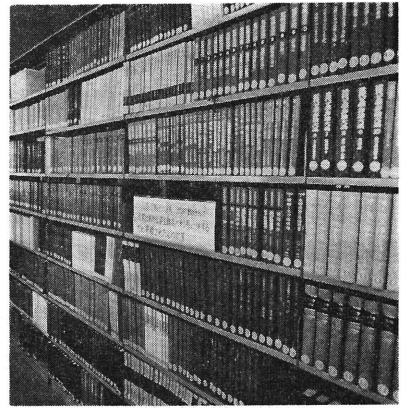
## 学内マイク

## 池田前学長の寄贈図書

昭和50年11月6日付でご退官になった前学長池田数好名誉教授から、ご退官記念として学生のための教養図書「原典による学術史」ほか人文科学・社会科学・自然科学各分野に亘る合計125点、1,557冊、金額にして2,850,000円分の寄贈を受けました。3階の開架指定書閲覧室に特別コーナーを設けて、昭和52年12月末日までは掲載写真のように一括展示をして閲覧に供し、そのあとは一般図書として貸出しもできるようにそれぞれを一般書架へ分類排架することにしております。

この誌上で広く学内に紹介し活用をお願いするとともに、池田前学長へ厚く御礼申し上げます。

寄贈を受けた図書の目録は下記のとおりであります。



## 池田前学長寄贈図書リスト (書名の50音順)

| 番号 | 書名            | 冊数   | 番号 | 書名            | 冊数   | 番号 | 書名                | 冊数   |
|----|---------------|------|----|---------------|------|----|-------------------|------|
| 1  | アイヌ叙事誌・ユーカー集  | 9    | 24 | ガブリエル・マルセル著作集 | 9    | 47 | 講座日本史             | 10   |
| 2  | 朝倉化学講座        | 21   | 25 | 基礎経済学大系       | (4)  | 48 | 講座比較文化            | (6)  |
| 3  | アジア仏教史        | (3)  | 26 | 基礎心理学         | (6)  | 49 | 講座比較文学            | 8    |
| 4  | アナキズム叢書       | 8    | 27 | 基本的人権         | 5    | 50 | 小林英夫著作集           | (9)  |
| 5  | 飯塚浩二著作集       | 10   | 28 | 教育学研究全集       | 14   | 51 | コンピューターによる構造工学講座  | (22) |
| 6  | 泉 靖一著作集       | 7    | 29 | 近代日本思想大系      | (29) | 52 | サイリスタ・エレクトロニクス    | 5    |
| 7  | 伊波普猷全集        | 11   | 30 | 近代文学評論大系      | 10   | 53 | 社会学講座             | 18   |
| 8  | 今西錦司全集        | 10   | 31 | 魚類生理学講座       | 5    | 54 | 写真とテープによる化学英語シリーズ | 8    |
| 9  | 江戸科学古典双書      | 8    | 32 | 空中写真日本        | 1    | 55 | シャトレ哲学史           | 8    |
| 10 | エリアーデ著作集      | (12) | 33 | 栗原百寿著作集       | (4)  | 56 | 植物遺伝学             | (2)  |
| 11 | 円鶴叢書          | 9    | 34 | ゲーテ全集         | 12   | 57 | ショーペンハウアー全集       | 15   |
| 12 | エンジニアリングサイエンス | (21) | 35 | 現代応用心理学       | 10   | 58 | 資料日本現代教育史         | 4    |
| 13 | 大河内一男著作集      | 5    | 36 | 現代応用数学講座      | (5)  | 59 | 新基礎化学シリーズ         | (8)  |
| 14 | 大塚久雄著作集       | 10   | 37 | 現代基礎物理学選書     | 9    | 60 | 新選100冊の本          | 216  |
| 15 | 大宅壮一エッセンス     | 6    | 38 | 現代数学への序章      | (7)  | 61 | 新実験化学講座           | (22) |
| 16 | 応用微生物学シリーズ    | (2)  | 39 | 現代日本戯曲大系      | 8    | 62 | 新地学教育講座           | (14) |
| 17 | 回想の文学         | (2)  | 40 | 現代の思想         | 10   | 63 | 新編日本山岳名著全集        | 12   |
| 18 | 改造文庫覆刻版       | 50   | 41 | 現代の神経科学       | 4    | 64 | シンボジウム日本文学        | (15) |
| 19 | 化学のシステム       | 4    | 42 | 原典による学術史 I 期  | 8    | 65 | 新村出全集             | 15   |
| 20 | 家族            | (4)  | 43 | 工業デザイン全書      | 7    | 66 | 数学講座              | (17) |
| 21 | 亀井勝一郎全集       | 24   | 44 | 講座現代人の科学      | 12   | 67 | 水文学講座             | (8)  |
| 22 | 河上徹太郎全集       | 8    | 45 | 講座史的唯物論と現代    | (2)  | 68 | 西域探検紀行全集          | 16   |
| 23 | 環境防災ライブラリー    | 11   | 46 | 講座情報社会科学      | (15) | 69 | 西欧政治思想史           | (1)  |

| 番号 | 書名           | 冊数   | 番号  | 書名             | 冊数   | 番号                                                        | 書名           | 冊数   |
|----|--------------|------|-----|----------------|------|-----------------------------------------------------------|--------------|------|
| 70 | 生化学実験講座      | 26   | 90  | 電子・通信・電気工学基礎講座 | (13) | 110                                                       | フォイエルバッハ全集   | 18   |
| 71 | 青年心理学講座      | 5    | 91  | トインビー著作集       | 8    | 111                                                       | 福武直著作集       | 11   |
| 72 | 生物科学講座       | (7)  | 92  | 統計学古典選集        | 5    | 112                                                       | フランス文学講座     | (2)  |
| 73 | 生命科学の基礎      | (2)  | 93  | 新田次郎全集         | 22   | 113                                                       | 物理科学の古典      | (4)  |
| 74 | 世界各国史        | 15   | 94  | 日本原始美術大系       | (2)  | 114                                                       | 文化誌世界の国      | 24   |
| 75 | 世界教育史大系      | (37) | 95  | 日本山岳地図集成       | 2    | 115                                                       | 法社会学研究       | 7    |
| 76 | 世界幻想文学大系 I 期 | 15   | 96  | 日本図誌大系         | (10) | 116                                                       | マルクス・エンゲルス全集 | 45   |
| 77 | 世界の技法シリーズ    | (8)  | 97  | 日本農書全集         | (1)  | 117                                                       | 見田石介著作集      | 6    |
| 78 | 世界の名著        | 81   | 98  | 日本の歴史          | 4    | 118                                                       | 南方熊南全集       | 12   |
| 79 | 世界批評大系       | 7    | 99  | 人間生存と自然環境      | 4    | 119                                                       | 民法学          | 7    |
| 80 | 戦後日本思想大系     | 16   | 100 | 人間の科学叢書        | 10   | 120                                                       | ヤスパース選集      | (32) |
| 81 | 戦後日本政治史      | 4    | 101 | 沼田稲次郎著作集       | 10   | 121                                                       | 吉田秀和全集       | 10   |
| 82 | 戦後日本の教育改革    | 10   | 102 | 橋本宇太郎全集        | 6    | 122                                                       | ヨーロッパの哲学     | 3    |
| 83 | 続日本古代史論集     | 3    | 103 | 発生生物学シリーズ      | (4)  | 123                                                       | 理工学基礎講座      | (21) |
| 84 | 大系日本国家史      | 5    | 104 | 早川孝太郎全集        | (6)  | 124                                                       | 歴史科学大系       | (15) |
| 85 | 高木市之助全集      | 6    | 105 | 久松潜一選集         | 8    | 125                                                       | 和刻本経書集成      | (7)  |
| 86 | 滝沢克巳著作集      | 10   | 106 | ヒマラヤ           | 7    | (注) 冊数欄の数字を( )で表わしているのはそのシリーズは未完成であって9月25日現在で受入れている冊数である。 |              |      |
| 87 | 武谷三男現代論集     | 7    | 107 | 標準電気機器講座       | 10   |                                                           |              |      |
| 88 | 田中美知太郎全集     | 14   | 108 | 微生物学           | 3    |                                                           |              |      |
| 89 | デカルト著作集      | (1)  | 109 | 微生物の生態         | 4    |                                                           |              |      |

## 医学分館図書委員会

医学分館では、去る5月17日(火)、図書委員会が開催された。当日の議題は次の通りである。

1. 昭和51年度決算及び昭和52年度振替予算要求について
2. 図書館備え付け外国雑誌の購入調整について
3. 昭和53年度概算要求について

## 九州地区医学図書館協議会総会(第25回)

〈とき：昭和52年5月13日 ところ：久留米大学医学図書館(筑水会館)〉

今回の総会は、加盟9館21名及び中国四国地区を代表して山口大学がオブザーバーとして参加し、当番館久留米大学医学図書館中村館長が議長となり、次の議題について協議した。

1. 九州地区保存図書館構想について
2. 購入新着雑誌の誤送分の調整連絡(九州地区加盟館のみ)について
3. 図書館統計調査様式の統一化について(以上九州大学)
4. ユニオン・カタログの報告カード(1941-)はいつになったら冊子体目録として継続出版されるだろうか(福岡医科大学)
5. 中国四国地区との合同協議会について(長崎大学)

なお、このほかに承合事項として、一蔵書点検に関する調査について(久留米大学)があった。分館から後藤館長、西嶋受入掛長、福永目録掛長が出席した。

## 人事異動

4. 1 長尾 公司(附属図書館事務部長)東北大学附属図書館事務部長へ  
 " " 岡田 六郎(広島大学学生部次長)九州大学附属図書館事務部長へ  
 " " 三原 輝義(教養部事務長・教養部分館業務主任(併任))理学部事務長へ  
 " " 川島 啓二(文学部事務長)教養部事務長・教養部分館業務主任(併任)へ  
 " " 長 和栄(整理課目録掛長)文学部図書掛長へ  
 " " 三嶋 博義(閲覧課閲覧掛長)整理課目録掛長へ  
 " " 中野 周行(教養部分館閲覧掛長)閲覧課閲覧掛長へ  
 " " 久保 昭夫(閲覧課参考掛長)教養部分館閲覧掛長へ  
 " " 出島 照義(都城工業高等専門学校図書掛長)閲覧課参考掛長へ  
 " " 西村 健次(医学分館受入掛長)退職  
 " " 西嶋 武(文学部図書掛長)医学分館受入掛長へ  
 " " 畑 洋子(教養部分館受入目録掛)教養部数学教室へ  
 " " 高原 真澄 教養部分館受入目録掛に採用  
 5. 1 江口 正(工学部図書掛主任)北九州工業高等専門学校用度掛長へ  
 " " 関岡 幸雄(整理課会計掛)農学部附属農場会

## 目録

## 会議等

- 4.11~16 会計検査  
 5. 9 九州地区国立大学図書館協議会 於はかた会館  
 10 九州地区大学図書館協議会 於はかた会館  
 16 全学図書系掛長会議, 図書館情報編集委員会  
 17 図書系掛長研修会  
 18 図書系職員研修会  
 19 図書館商議委員会  
 27 福岡県・佐賀県大学図書館協議会 於九工大

## 計掛へ

5. 1 栗山 成昭(歯学部会計掛)整理課会計掛へ  
 6. 1 中島 冠守(有明工業高等専門学校寮務係長)教養部分館目録掛長へ  
 " " 舟越 俊允(経済学部図書掛)都城工業高等専門学校図書係長へ  
 " " 山本 久(医学分館受入掛)有明工業高等専門学校図書係長へ  
 " " 保田 秀人(教養部分館受入目録掛)医学分館受入掛へ  
 " " 緒方 義信(理学部図書掛)経済学部図書掛へ  
 " " 平川 友視(教養部分館受入目録掛長)教養部分館受入掛長へ  
 " " 白土ミヨシ(教養部分館受入目録掛)教養部分館受入掛へ  
 " " 安川 澄子(教養部分館受入目録掛)教養部分館目録掛へ  
 " " 田中 粧(教養部分館閲覧掛)教養部分館受入掛へ  
 " " 井手 公東(教養部分館受入目録掛)教養部分館閲覧掛へ  
 " " 手塚 恒子(教養部分館受入目録掛)教養部分館目録掛へ  
 " " 井上久美子(教養部分館受入目録掛)教養部分館受入掛へ  
 " " 八尋多恵子(教養部分館受入目録掛)教養部分館目録掛へ  
 " " 植木 義見(工学部工営掛主任)工学部図書掛主任へ

6. 2~ 3 全国国立大学図書館協議会 於一橋大  
 9 図書館情報編集委員会

## 来館者

- 4.13 大分工業高等専門学校 立花事務長  
 5.10 文部省学術国際局情報図書館課 前田課長補佐, 雨森大学図書館係長  
 5.13 アメリカ農学図書館 Richard A. Farley 氏  
 16 九州芸術工科大学附属図書館 永芳事務長  
 20 東京大学附属図書館 安藤館長  
 23 信州大学附属図書館 武居館長

編集委員 主査・岩井 昭三 委員・重松多喜造, 中野 周行(中央図書館), 朝倉 一(医学分館)  
 平川 友視(教養部分館), 堺 弘(経), 岸本 澄夫(理)

九州大学附属図書館報「図書館情報」Vol. 13, No. 2 (通巻107号)

1977年6月30日発行・発行人 岡田 六郎

発行所 九州大学附属図書館・福岡市東区箱崎6丁目10番1号・〒811②・電話代表(641)1101内線5310